

2025年度：城南衛生管理組合環境マネジメントシステム 外部評価報告書

2025年12月19日
外部評価員 吉田康夫

外部評価実施日 2025年12月18日 - 19日
外部評価実施サイト クリーンピア沢、沢中継施設、グリーンパーク折居、事務所棟、グリーンヒル三郷山

【総合評価】

次項以降の評価に基づいて、城南衛生管理組合環境マネジメントシステムは「組織にとって適切であり、運用は妥当であり、意図した目標に対し有効である」と判断します。

【主要項目】

1. システムの運用

今回の外部評価は「第8版：令和7年4月1日付：城南衛生管理組合環境マネジメントシステム運用マニュアル」に基づいて実施しました。主な事項として、定められた手順に則って決定された著しい環境側面は、目標・維持管理・緊急事態等の活動に展開され、又、適切に特定された順守義務（法的及びその他要求事項）について不順守事項はありませんでした。各部門では、環境目標への熱心な取組が行われ、運用要領書に基づいた真摯な活動が行われています。システムの運用は大変良好です。

2. マネジメントレビュー

マネジメントレビューは令和7年5月30日に専任副管理者、総務部長、施設部長、環境管理責任者参加のもと実施されています。レビューのための資料は内部監査の結果、外部評価の結果、環境目的・目標の達成状況他、計10項目が詳細に示され、改善の提案に繋げておられます。マネジメントレビューの結果、専任副管理者から指示事項が示されています。

他の関連する記録類及びインタビューからもマネジメントシステムは適切、妥当、有効であると判断します。

* 指示事項

(1) 地域や構成市町との連携を深め循環型社会の構築に向けた活動を進めること。(2) 環境目標：エコオフィス活動の徹底 [省エネ管理 (パソコンの省エネ設定、冷暖房の適正運転、不要照明の消灯、両面印刷) の徹底、ペーパーレス会議の推進] (3) 2030年度温室効果ガス排出量46%削減：プラ一括回収、可燃ごみに含まれる廃プラスチック量の削減等へ新たな取組を行う等。

3. 内部監査

内部監査は、年1回：直近2025年7月15日～23日に実施されています。力量が担保された内部監査員13名により、内部監査チェックシートを使用して全部門に対し行われています。監査結果は、内部監査結果報告兼是正・予防処置記録で通知されています。指摘区分は、不適合、観察、要望、称賛の4区分があり

ます。2024 年度の監査結果は ・不適合：0 件 ・観察事項：11 件 ・要望事項：12 件 ・称賛事項：11 件ありました。観察事項 11 件については全件是正処置済です。要望事項についても是正処置に取り組む事例があり熱心な取組が行われています。

関連する記録類からも監査の公平性、有効性が確認できました。

4. 計画：目標の管理

令和6年度：目標	達成状況
・組織全体の共通目標 循環型社会、脱炭素社会の構築をめざす	8件 ⇒ 達成 5件 達成率 62.5 %
・安心・安全な施設運営目標	7件 ⇒ 達成 3件 達成率 42.9%
・サイトごとの目標 循環型社会、脱炭素社会の構築をめざす	12件 ⇒ 達成 9件 達成率 75.0%

環境目標が未達成の場合は、「不適合・是正処置記録」を作成することになっています。該当事例については全件、是正処置が行われています。

特記事項：ロードマップの見直しについて：組織では、2030年：CO2排出量の削減率46%の目標達成に向けてロードマップを作成し進捗管理が行われています。来年4月から「プラ一括回収」の運用が始まりますが、その効果を発揮するべく横断的な取組や、これまでの取組に対する見直し（強化、継続、改訂等）も考慮されることをお勧めします。より効果的なロードマップとするべく全部門ベースで検討されることを要望させていただきます。

5. サイトにおける活動

サイトでは、運用管理要領に基づいて真摯な活動が展開されています。R6年度では、不適合事例（内部監査、目標管理を除く）はなく、活動は良好です。緊急事態への対応訓練も良好です。

【観察事項】

1. グリーンヒル三郷山

令和6年4月1日に奥山排水処理施設がグリーンヒル三郷山に移管されましたが、環境側面・影響リストアップ表では、奥山排水処理施設について環境側面の特定が不十分です。

【称賛事項】

1. 沢中継施設

中継施設内の床面、設備等への清掃が大変良好です。又、ホワイトボードには、「個人ごとに当日の行動予定（AM/PM）が表示、曜日ごとの安全確認シールが貼りつけられ朝礼で唱和、中継施設の点検計画表他が示される等、効果的なコミュニケーションに繋がっています。

2. クリーンパーク折居

焼却炉の運転にあたり、1 炉運転時よりも2炉運転時の方が売電量が増加するため、できるだけ2炉運転を長く確保できるような運転計画を立て、また、売電量に係る目標を設定し、取り組まれています。

以上